

光といのち

第131号

— お盆 —

2021年8月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

HP <http://syozenji.or.jp/>

住職井上孝昌(釋孝昌)

浄土真宗の寺は、
仏さまの教育を
受ける教室です。

池田 勇諦



今年も岩井海水浴場は不開設 2021.7.21 15:00撮影

暑中お見舞い 申しあげます。

すでにコロナワクチンを二回接種し、ひと月ほど経ちました。しかし外出する時はマスクを着用し三密を避け手指消毒を励行する生活が、まだ続いています。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

いよいよオリンピックが始まりました。テレビで観戦しているとアスリートの活躍に胸躍らされます。しかし運営に関わる方々のご苦労やその後の感染症の行方を思うと、モヤモヤ感はぬぐえません。

ワクチン接種したからといえデルタ株などの変異ウイルスに

感染するかもしれないし、未接種の若い世代に感染が広がり第五波が押し寄せています。

お葬式やご法事は少人数で会食を避け、寺の法要や聞法会なども同様です。秋彼岸会からオンライン配信を初めましたが、この方法だからこそ参加できた方もいらつしやいました。これは嬉しいことです。

写真は、夏真っ盛りの岩井海岸です。菊池寛が「遠あさの海きよらかに 子等あまた群れあそびある 岩井よろしも」と詠んだとおり、この季節には臨海学校の児童・生徒で賑わった「子どもの海」も、ご覧のとおりです。この近くの民宿は「学生村」と呼ばれ大学生がサークルの合宿をしていましたが、昨年の春以来若者の声は聞こえません。

高齢化・未婚化・少子化・核家族化・世帯構成人数の減少・過疎化、これらはコロナ以前から南房総の深刻な問題です。

人口構成や生活習慣が変わってしまった今、寺に何が求められるのか・・・。

題字下の言葉に、私の目から鱗(うろこ)が落ちました。

この言葉に続けて池田勇諦先生は、「その教室の先生は、親鸞聖人。生徒は、住職・坊守・ご門徒」だと。

そうです。皆さんと共に仏法聴聞し語り合うことが、住職の仕事でした。

ところで「仏さまの教育」は、どんな内容なのか。

それは、学校教育や社会教育とはまったく違います。人格を陶冶する教育でもありません。盂蘭盆会では、そのことをお話ししたいと考えています。

ちなみに、お葬式やご法事は、仏さまが参列者を教育している場です。死者を追善供養をする為僧侶が儀式を執行しているのではありませんよ。

盂蘭盆会

八月十日(火)

十時～十一時半

ユーチューブ限定公開で配信します。「お参りします」とメールをください。URLを送ります。

本堂かご自宅かどちらかで、お参りください。

これは池田勇諦先生が、二〇〇七年八月三十一日に東京練馬東本願寺真宗会館でなされたご法話の抜粋です。

仏壇は、死者を祀る「死者壇」ではない。生きている私たちが仏さまの教育を受ける「教育壇」、親子共ども育てられる「共育壇」であると。

このお話しに、教員を辞め退職に就任したばかりの私は、天地がひっくり返るほど驚いたことを思い出します。

仏壇が無くて子育てができるか

今年の五月に福井で大変感動した一言に出遇いました。自主的に集まって開法会をなさっている方がたで

す。主婦の方が十五、六人集まって、毎月開法会をなさっておられます。顔ぶれは、十五、六人の中で十名ほどが五十代、六十代の方が少し、四十代の方が少し、五十代の主婦の方が中心の自主的な開法会なのです。その会に参加しておられる方から直接聞かせてもらったことです。その女性は、「私は五十七歳です。家は農家で、子供が三人おります。三十代の長男が二、三年前に結婚して、子供も一人恵まれております。農家ですから、家がそれなりに広いので、一緒に暮らしています」とおっしゃいました。去年のことだそうですが、その息子さんが唐突に、「お母ちゃん、僕は別居するでな」と言ったそうです。別居という言葉も今では常識化していますが、よもやそれが自分のところには思わなかったもので、正直言ってビックリしたというので

す。ですが、息子がそういうのだから仕方がありません。「アンタらはいやうにしたら、ええやないか」となったのですね。これも農家なればこそですが、畑の一部を宅地にして、そこにご長男が家を建てた。そして、住まいが完成したので見に行つた。完成するまで、両親は、一切口を出さなかったのだそうです。行つてみたら、今様のモダンなハイカラな家が建っているというわけです。中へ入ると、みんな洋間。ところが一部屋だけ和室があったので息子にたずねた。「これ何の部屋や」。「お父ちゃんとお母ちゃんが来てくれた時に泊まってもらう部屋や」。優しいことを言ってくれたという感じがしたのだけれども、その次の瞬間に口から出た言葉は「ところで、あんた、お仏壇はどこへ据えるんや」。そうしたら、息子曰く「この床の間や」。お仏

壇を据える空間はこしらえてない。

「お仏壇なら、この床の間に置けるよ。けど、そんなことはお父ちゃんやお母ちゃんが死んだら考えるわ」と。思わず息子に言いました。「あんな、お仏壇も無くて子育てができると思つとるのか。何でボク生まれてきたんやと子供からたずねられたら、何と返事するんや」と言いました、と。

私はその一言を聞いた時に、飛び上がらなばかりに思ったね。こういう人がおられるのかと。皆さん方は、

どうですか。息子さんが言ったのは一般論でしょう。お仏壇といえ、死者壇です。亡くなった人を祀るもの、と。だから、様々な迷信が離れませんか。ところが、その主婦の方が言われたのは、お仏壇というのは教育壇だ。仏壇が無くて子育てができるか。こういう生きた言葉は、私の言葉を寄せ付けません。教育壇で

すから、仏の教育、仏さまの教育を受けるお壇なのです。教育壇が無い家庭であれば、人間に成れないということでしよう。教育壇無くして、人間には成れない。私たちのご宗門も、お内仏中心の生活、ご本尊中心の生活ということが同朋新聞などでよく取り上げられています。お内仏中心の生活、ご本尊中心の生活ということは今のお言葉で申せば仏の教育壇なのです。親子共どもの「共育壇」です。

(略)

ある人が言われました。「この頃の子供を見ていると、本当に恐ろしい。自分の思いが通るか通らないか、そこだけで生きています」。自分の要求が叶えてもらえなかったら、やんちゃをいう。本当に空恐ろしいと思いませんか。本当に空恐ろしいと思いませんか。本当に空恐ろしいと思いませんか。本当に空恐ろしいと思いませんか。本当に空恐ろしいと思いませんか。

そういうことになります。だから、核家族化ということは、人間にとって大事なことを押し流してしまっているのです。宗風が崩れてきているということですね。文化は模倣によって伝わるという言葉に、あらためて注目させられます。この大会東京では特にそうではないかと思いますが、葬式や法事を勤めない方向に向かっていると聞きすることがあります。地方でもそういうわれています。お葬式の折に、隣近所の方が互いに協力して勤める。法事では、親族一同が集まってお勤めをする。一見煩わしいことのようにけれども、何百年と続いてきたことによつて真宗の宗風がどれほど培われてきたことか。それが消え去ったといつても過言ではないほどに崩れつつある今日の状況です。

(『『教行信証』に学ぶ 一』より転載)

勝善寺奉仕作業

6月27日(日)



前日の天気予報では大雨。朝六時30分に延期を連絡網で流す算段でしたが、予報は見事にはずれ、予定どおり実施できました。

前列右から(敬称略)

川名信之 久保田 守 明石義久

田村晋一 田中昭一 川名喜昭

足達 崇 田中誠 青木達郎

田村徹夫 中山明夫 能城広之

二列目

姫松実 石井俊幸 明石圭司

狩野昌也 中山郁夫 川名利幸

三列目

黒川敦子 池田千代枝

長谷川吉枝 堀海榮子

大胡登美子 渡邊秀子 坊守

四列目

川名志緒子

三堀清さんと朝倉和利さんは、地元の草刈りを終え駆けつけてくださいました。

コロナウイルス感染症の影響や各地区の草刈りと日取りが重なり

例年に比べ参加人数が少なく大変

でしたが、鐘突き堂周辺と第二墓

地奥の桜を植樹した場所の草刈り

と本堂と庫裏のガラス拭きを終え

えることが出来ました。

有り難うございました。

来年の日取りは、六月第二日曜

への変更を検討しています。

への変更を検討しています。

世話人交代 (敬称略)

二部下 (川谷堀・亀井)

旧 能重 薫

新 久保田 守

江月 (二人中一人交代)

旧 吉本 行男

新 能城 広之

今まで有り難うございました。これから宜しくお願いします。

推進員教修のご案内

「仏教を聴聞してみたい」と少しでも思っている方、どうぞ手を挙げてください。

推進員の役目は、仏教を聴聞し、すでに推進員となった

方々や住職・坊守などと語り合うことです。特別な義務や

責任はありません。

世間体や損得、勝ち負け、好き嫌いを尺度に生きている

人生が、深く豊になること請け合いです。

教修は、左記のとおり。

記

前期 (東京・真宗会館)

三月一日・二日・十四日

後期 (京都・東本願寺)

六月一日・三日

※参加費と交通費は寺が支給します。

お盆を迎える

盆だな・キュウリの馬とナスの牛・迎え火や送り火などは、門松や七夕飾りと同じで、日本の習俗です。浄土真宗の儀礼ではありません。

仏壇を清掃し、左記の真宗大谷派用切り籠灯籠をできれば吊してください。

亡き方を偲びつつ、南無阿弥陀仏と念仏申すことが肝要です。



行事予定

孟蘭盆会 8月10日10時

秋彼岸会 9月23日10時

役員会 10月1日13時30分

仏教を聞き語り合う会

10月10日14時

世話人総会 10月24日13時30分

仏具磨き 11月15日13時30分

報恩講演 11月19日13時30分

速夜 15時

晨朝 20日6時過ぎ

日中 20日10時